

03・あなたの病を治す方法

〈シチュエーション〉

本編トラック02の数分後。

三月三十日（土）十三時ごろ。

結月の治療用に用意された仮想空間の内部……の、結月がいたベッドの上。

主人公は先程、結月から、彼女が罹患した『病』がなんなのかを聞き出す事に成功した。

しかしそれは『胸から母乳のようなものが出る』という衝撃的なものだった。

これとともに主人公は、結月の様子と自分の身に起きた変化から、結月の願望は『欲望を抑えたくない』『性的な事がしたい』といった事ではないかと推測する。

そこで主人公は、ここに山を張り『性的なテクニックが異常に向上する』という特性を利用して、結月を性的に満たそうとする。

ルナの登場はなし。すべて結月のセリフのみ。

場所移動はなし。ずっとベッドの上でストーリーが進行する。

SE1 部屋の環境音

【最初から最後まで流す】

【繰り返し流す】

【トラック終了まで流し続ける】

【0—5秒ほど流してS E 2】

S E 2 主人公と結月がベッドの上で動く音

【最初から最後まで流す】

【途中から『結月』のセリフと重ねて流す】

● 正面 0センチ

■ ベッドの上で主人公と抱き合い、夢中でキスしている。

なぜそうなのかはわからないが、主人公とキスすると、不思議と落ち着くような気がする

「【※しばらく※】呼吸交じりにキスする。

一行ごとに少し間があく感じで。

あまあまで熱っぽく、ずいぶん『キスし慣れてきた』キス。

おずおずとしつつも、自分からも求めている感じで」

んっ………♡

んっ♡ んっ♡

んんんう……♡

ちゅ♡

はぁあ……♡ はぁあ……♡ はぁあ……♡ はぁあ……♡

ふう……♡

ちゅ♡ ちゅ♡ ちゅ♡ ちゅ♡ ちゅ♡

はぁ……♡ はぁ……♡ はぁ……♡ はぁ……♡

ふうう……♡

〈主人公〉

「……どう？ 少し、落ち着いた？」

● 正面 0センチ

■ 本編トラック02でのやりとりと、繰り返した肌のふれあい、かなり素直になっている。

様々な事を隠さなくてよくなったので、精神的に非常に楽になっている
「【しおらしく、素直にうなづく】

……うん。

ちよつと、落ち着いた。

話、聞いてくれてありがとう……。

【※1回※ 自然と、結月の方からキスをする】

ちゅ♡

〈主人公〉

「いえいえ、この程度でしたら」

● 正面 0センチ

「【少し期待したような、甘く嬉しそうな声で。

またキスする雰囲気になったので】

あ……♡

【※7回※ キスする。

あまあまで、ずいぶん『キスし慣れてきた』キス】

ちゅ♡ ちゅ♡ ちゅ♡

ちゅ♡ ちゅっ♡ ちゅっ♡ ちゅっ♡

【あまあまに抗議する。

明らかに『全く嫌がっていないどころか、すごく嬉しそう』という感じで】

もお……♡ すごいキスするう……♡

〈主人公〉

「えー？　今の、明らかに自分からしてきたじゃん」

● 正面　0センチ

「『あまあまに反論する。』

明らかに『全く嫌がっていないどころか、すごく嬉しそう』という感じで
えー……？　♥　適当言わないで。

貴方からよ。

ずっと、貴方からしてきてるんじゃない……♥」

〈主人公〉

「まあ、どっちでもいいけど……♥

どのみち、キスはしていいんでしょ？」

SE3　主人公と結月がベッドの上で動く音2

【最初から最後まで流す】

【途中から『結月』のセリフと重ねて流す】

●正面 0センチ

「※1回※ キスする。

甘ったるく、少しびっくりして。

またキスされたので。

ん♡

【※4回※ キスする。先程よりも濃厚なキス】

んっ♡ んっ♡

んふううつ♡ んゝ……♡

【かわいく、ちょっと悔しそうに。

一行ごとに少し間があく感じで】

……うん。

していい。

していいけどっ♡

【言葉の途中で、そのままなめらかにキスする】

何（なん）か恥ずかしい……ちゅ♡」

〈主人公〉

「てかさ」

●正面 0センチ

「【きょんと不思議そうに。

主人公がこれから何を話そうとしているかわかっていない感じで』
うん？」

〈主人公〉

「もしかして、急に連絡してきたのも、この病気絡みだったりする？」

●正面 0センチ

「【小さく。『声としてはさほど驚いていないが、内心とても大切な話題に触れられたことに驚いている』という感じで」

あ……。

●正面 0〜30センチ

■主人公の質問に答え、また、自分の『病』が進行していった過程について述べる

【※ずっと離れる※ 大事な話をしようとしているので。

※長めに間をあけてから※

『話すべきかしばらく悩むが、やっぱり話そうと思った』という感じで……うん。

そうなの。

先週連絡したのは……そういう事。

【※マークまで、少しゆっくり目に。

重要な『説明セリフ』なので。

できるだけ冷静に、正しい情報を伝えようとするが、だんだん声に不安が混じって来る。当時の気持ちを思い出しているのだから】

この病気になった、最初の頃は。

【一行前のセリフを補足する。

言い終えてから、正確な時期を言った方がいいと判断したので】

三月の頭位（あたまくらい）は……その。

『気のせいかな？』って思う程度だったんだけど。

だんだん……酷くなって。

それでもって……今度はちゃんと調べたら。

『放置したらいけない』って書いてあって……。

……でも、こんなの。恥ずかしくて誰にも相談できないし……。

パパとママにも、心配、かけたくないし」

〈主人公〉

「……うん」

● 正面 30センチ

「『不安な、泣きそうな声になっていく。』

当時の自分の心境を思い出しているの」

それで結局、病院行けないまま春休みになっちゃって……。

このままだとっ、またっ。

入院しなきゃ駄目なのかもって、思っ……。

昔、身体弱かった時みたいに。

しばらく学校にも行けなくなっちゃうかもしれないって思っ……。

……だから、その前に会いたくて。

もし何かあっても後悔したくなくて、かけ、たの」※

〈主人公〉

「……なるほどね。納得した」

● 正面 30センチ

■「ここまでの経緯を言葉にして振り返った事で『考えれば考えるほど、主人公は無関係だ。なのに、巻き込んでしまった』という申し訳なさでいっぱいになっていく

「【すっかりしよげてしまつて。

とても申し訳なさそうに」

ごめんね……急に連絡して、巻き込んで……。

貴方はほんとは全然、関係ないのに。

こんな病氣の話されても、意味、わかんないよね……」

〈主人公〉

「……ゆづ」

● 正面 30センチ

「【きょとんと不思議そうに。

主人公がこれから何を話そうとしているかわかっていない感じで』
ん？

● 正面 30×0センチ

【※すつと近づく※ 主人公が顔を寄せてきたので。

※1回※ キスする。不意打ちの、触れるだけのキス」

あ……ちゅっ♥」

〈主人公〉

「あんまり時間がないから、結論から言うね」

●正面 0センチ

「【きよとんと不思議そうに。

主人公がこれから何を話そうとしているかわかっていない感じで』

……え?」

〈主人公〉

「結論……いや、目的、だね。

私はゆづのその病気を治療するために、ここに来た」

●正面 0〜30センチ

■主人公の言葉を誤解する。そして、ショックを受ける。

すべてを知られてしまった今でも、自分の『病』の事に関しては非常にデリケートで、

できれば知られたくない事だったので。

主人公がどのタイミングで知ったのか、非常に気になる

「【※すつと離れる※ 非常に驚いたので。

虚をつかれたように」

あっ………？

【あわあわと】

それって、貴方は私がこの病気に罹（かか）ってる事、知っていてここに来たって事？」

〈主人公〉

「少し違う。

まず、ゆづは今日、私と待ち合わせしてる時に倒れた。
そのまま病院に搬送されて、今もベッドで眠っている」

● 正面 0ゝ30センチ

「【絶句する。予想だにしない事を聞かされたので】

………え………!!」

〈主人公〉

「私は搬送の時からそばにいて、さっき、ゆづの脳と接続してるっていう治療用AIと話した。

そこで、ゆづの……その、胸の病気の方は聞かなかったけれど。

倒れた原因には、精神的なものが大きく関わっていると教えてもらったんだ。

だから私は、今日会う予定だった事、先週誘われた時に様子がなんだか変だった事。

それから『もしかすると、この病気になった原因には、私も絡んでいるかもしれない』って事を伝えた。

『だから、治療に協力できるかもしれません。そうでなくても、できる事があるのならさせて下さい』って頼んだの。

そしたら……」

● 正面 30センチ

■ 胸の前に両手をすつと出して、主人公の説明をいったん遮る。

突然大量の情報を伝えられて、すっかり混乱しているの。

『一度話をここで止め、自分の言葉で少しずつまとめながら理解を進めていいか』と提案する

「【とても混乱しつつ、申し訳なさそうに。
ゆっくりめに。

また、一行ごとに少し間があく感じで……ま、待って。

急に、凄い、全然知らなかった事を一気に教えてもらって、ちょっと混乱してる。確認しながら、話してもいい？」

〈主人公〉

「うん」

● 正面 30センチ

■ 混乱、困惑しつつも、健気に情報を整理しようとする

「【※マークまで、少しゆっくり目に。

重要な『説明セリフ』なので。

とても衝撃を受けつつも、必死で努力して情報を整理し始める。

『ここまで頼りない側面ばかり描かれてきたが、結月は知的な人間である』という事が伝わる感じで」

つまり、ほんととは私って、今は病院で眠ってて。

ここは私の頭の中……と接続してる、治療用の仮想空間なのね？
目が覚めてからも、何か頭がふわふわしてて、変な感じだったのは、そういう事だった

のね？」

〈主人公〉

「そうだよ」

●正面 30センチ

「【困惑しつつも、納得した様子で。

『そう思えば合点がいく』という感じで』
なるほどね……。

■ここに至るまでの自分の記憶や、所感を述べる。

それから、また話の続きを自分の言葉でまとめる事で、理解を進めていく
【少し間をあけてから】

……あのね。

実は、貴方との待ち合わせ場所で、急に具合が悪くなって、意識がなくなった所までは覚えてる。

……でも、目が覚めたらここにいて。

記憶と今が、繋がってなくて。

けど、夢っていうには随分リアルすぎて。

だから訳がわからなくて、困ってたけど……これで状況がわかったわ。

【少し間をあけてから。

あらためて感謝の気持ちを述べる】

教えてくれて、ありがとう。

【少し間をあけてから。

話題が切り替わるので】

それで……貴方は、私専属？ の治療用AIの推測を聞いて。

その推測では、胸の病気の事については特に何も聞かなかった。という事でいい？」

〈主人公〉

「概ねそんな感じ。

正確には、結月が一体何の病気にかかっているのか、仮想空間の中で聞き出すのが治療の条件だって言われたんだ」

● 正面 30センチ

■ 話すうちに、かなり落ち着いてくる。知的な側面が出てくる

「【さらに落ち着いて、納得した様子で】

ああ……なるほど。

『本人の口から直接聞き出すように』って言われたのね。

だから、さっきまでは知らなかった。

でも、倒れた理由は、精神的なものらしいっていうのは教えてもらって……。

『もしかするとそこには、自分が関わってるんじゃないか』って、思ってた。

手伝ってくれる事にしたのね」※

〈主人公〉

「ご名答。まあ、そういう事」

●正面 30センチ

■ここまでの話を、完全に理解する。それとともに、主人公への申し訳なさが強まる。

『謝りたい』と改めて思うようになる

「【すべて理解して、納得した様子で】

そうだったのね……。

【とても申し訳なさそうに】

もう……。

貴方が責任感じる事なんか、何もないのに。

貴方は巻き込まれた、だけなのに……。

ここまで、来てくれたのね。

ありがとう……」

〈主人公〉

「うーん。まあでも、それは私のセリフでもある。

私がここに来たのは、私の意思だから。

ゆづが責任を感じる事はないよ」

● 正面 30センチ

■ 主人公の優しさを嬉しく思う一方で、申し訳なさがさらに強まる

「【※息遣いのみ※】で表現する。

『あなたの、そういう所が……！』『私は嬉しいけれど、そんな優しすぎる所が心配だ』
という感じで」

っ………♥

【声が震える。どこか悔しそうに、納得がいかない様子で】

何（なん）か………それ、優しすぎない………？

あるわよ、責任。

貴方にはないけど、私にはある。

『会いたい』なんて思ったせいで。こんなに私、迷惑かけたのに……」

〈主人公〉

「……………」

●正面 30ゝ0センチ

■言葉を遮られるように、主人公にキスされる

「【※すつと近づく※】 主人公が顔を寄せてきたので」

……あ ♡

【※4回※】 キスする。

一方的にされる、受け身のキス」

んっ……ちゅ ♡ んっふ……ちゅ ♡

〈主人公〉

「ゆづ。さつきみたいになまた舌出して？」

●正面 0センチ

■指示されるまま、舌を出して絡ませるキスする

「【※しばらく※ キスする。

舌を出して絡ませる、ねっとりしたキス】

ふは……んっ♡

……れるる……れうっ♡

れるるう……むちゅっ♡

ちゅっぶ、ちゅっぶ、ちゅっぶ、れるる……れれっ♡

んっふ……ふうっ♡」

〈主人公〉

「あのさ」

●正面 0センチ

「【納得いかない様子ではありつつも、素直に続きを促す】

……うん」

〈主人公〉

「まず、私は何も、何一つ迷惑だなんて思っていない。

私は自分がそうしたいから『会おう』って言ったし、ゆづの問題に、自分も関わりたい
と思ったからここにいます。

だからもう『私には関係のない事』なんて言わないで。

……悲しいから」

今の『悲しいから』という言葉。

普段の主人公なら『むかつくから』と言っていただろう。
事実、ニユアンスとしてはこちらの方が近い。

『関係ない』と言われると、まるで拒絶された気分になって癪に障るからだ。
ただ、いくら本心に近いからと言って、乱暴な言葉を使うと、また別の誤解を生む事は
わかる。

だから、今は言葉を選んだし……この空間もそれを助けてくれたような気がした。

……もしかすると主人公は結月に、思ったよりも素直な人間として認識されているのか
もしれない。

● 正面 0センチ

■ 主人公の言葉に心動かされる。

これまで結月は『主人公は自分に迷惑をかけられるいわれはないのに』という意味で『関

係ない』という表現を用いていた。

だが、それは間違いであり、主人公を傷つけていたとわかったのだ。

撤回し、自分がすべきは謝罪よりも感謝の気持ちを伝える事だと理解する

「しおらしく、素直にうなずく。

心から納得した様子で」

うん……。

【※セリフ終わりまで、ゆっくりめに、真剣に。

主人公の言葉をかみしめるような感じで。

一行ごとに少し間があく感じで」

わかった。

……もう『貴方には関係ない事』だなんて、二度と言わない。

……そうだね。

言わなきゃいけないのは『迷惑かけた』じゃ、なかったよね。

来てくれて、ありがとう……♡」

〈主人公〉

「……うん。

じゃあ、話を続けるけど」

● 正面 0センチ

「【落ち着きつつ、はっと気づいて】

……あ、そうだったわね。

さっき、私が話を途中で遮っちゃってたんだ。

ありがとう。ここまではわかったわ。続きを教えて。

【少し不安そうに、おっかなびっくり尋ねる。

まだ自分の知らない事実が色々あるのかと思うと、少し怖いので】
……まだ何か、あるのよね？」

〈主人公〉

「うん。」

それで、私は治療用AIから、治療は『ゆづが『本当にしたがつてゐる事』を見つけ、
それをして、ストレスを解消してあげる事』だって教わったんだ」

● 正面 0センチ

■ これまでの主人公の行動の理由がわかり、一気に合点がいく。

『そういう事だったのねー!!』という気分になる

「急に合点がいった感じで、驚いて」

……あ!! ♡

【驚きつつ、どこか力が抜けたような気分になる。

これまで不可解だった主人公の行動原理が説明されたので」

そ、そういう事……!!

だ、だから貴方、さっき『私の本当にしたい事』はなんなのかを探ろうとしてて。

『素直にそれをするのがいい』って言ったのね……!!」

〈主人公〉

「そういう事」

●正面 0ゝ30センチ

「【※ずっと離れる※ 脱力して、自然と離れる。

ちよつと呆然としつつも深く納得して、同じ言葉を繰り返す」

そうか……そうか……そうなのね……？

■いよいよ自分の治療には、セックスが必要なのだと理解する。

これはもう覚悟を決めて主人公に頼み込まなくてはいけないが、まだ葛藤がある。

『素直になれない』というよりも『そこまで主人公を巻き込む事に抵抗がある』『自分に

とって初めての体験を、ここで急遽済ませなくてはならないという事に、心が追い付かない』という気分

【納得しつつも、ちょっと虚脱感に襲われている感じで】

そうだったの……ね……。

【※息遣いのみ※ で表現する。言葉を詰まらせる。

次に自分が何というべきかを理解しつつも、すぐにそれができない。

ものすごく葛藤しているのが伝わる感じで】

っ……。……っ……。

【かわいく唸る。とても苦悩している様子で。

自分にはこれから言うべき事があるが、まだ抵抗があるので】

うううう………

【※10回※ 呼吸する。

1回目で大きく息を吸った後、残り9回かけて、だんだんゆっくりになる深呼吸をする。
覚悟を決めようとしている】

すーっ……。

はー、すー、はー。

はー、すー。はあ。

はーっ。すーっ。はああ……。

「覚悟を決めて、きっぱりと。」

一行ごとに長めの間があく感じで。

『わかった、助けてと頼んだのは自分だし、主人公の言う通りにしてみる』という意味で言っている」

……わかった。

助けてって言ったのは私だし。

……する」

〈主人公〉

「……何を？」

● 正面 30センチ

「【覚悟を決めて、きっぱりと】

私の、してみたい事」

〈主人公〉

「……！」

● 正面 30センチ

■ 主人公の提案を飲む事にした理由と根拠を述べる

「【※マークまで、ものすごく恥ずかしそうに。

一行ごとに少し間があく感じで。

だが『もはや、はっきり言葉にしないで話が進まないし、ここまで来てくれた主人公に申し訳ない。恥ずかしがっている場合ではない』という感じで」

……貴方の指摘通り、私はその。

こういう。

【特に言いづらそうに。

『いやらしい事』という、曖昧な表現でも、口にするのにとっても抵抗があるので」

……ついやらしい事をしたいって欲求が……すごくあるんだと思う。

本当はその、凄く恥ずかしいし。

自分の問題に誰かを巻き込みたくなんてなかったけど……。

※

【少し間をあけてから】

この……おっきい部屋？ が仮想空間で。

ここで貴方と、私の、したい事をする事が治療なら。

■ 主人公の目を見ながら、自分の意思を伝える

【意思のこもった声で、きっぱりと。自分なりの覚悟を伝えたいので】

私、ちゃんとそれをやる。

貴方がここに来てくれた以上は……『来てよかったなあ』って、思ってもらえるようにしたいから……♡」

〈主人公〉

「……うん」

●正面 30センチ

■『申し訳ない、我ながら情けない』という気分になりつつも、話を進めていく
「【申し訳なさそうに謝罪する。】

『はあ……我ながらかつこ悪すぎ。巻き込んでごめんね』という感じで
ごめんね、治療っていうには、変すぎる感じになっちゃうと思うけど。

【とても言いづらそうに】
その……」

SE4 結月がベッドの上で動く音

【最初から最後まで流す】

【途中から『結月』のセリフと重ねて流す】

● 正面 30センチ

「『うわずった声で。とても恥ずかしそうにしつつも真剣に。

これは実質『自分とセックスしてください』という意味の言葉なので』
よろしくっ……お願いしますっ……♡」

〈主人公〉

「うん。任せとけ」

● 正面 30センチ

■ 覚悟を決めたら決めたで、気になる事が出てくる。

話題を切り替えて、主人公に尋ねる

「『ちよっとコミカルに、かわいく。

2 回目の『とっても』を強調して」

と、ところで。

これはとっても。とっ、ても大切な話なんだけど」

〈主人公〉

「うん？」

●正面 30センチ

■『今まで意識せずにいたが、これまでのやり取りは全部医療関係者や家族に見られていて、ここから先も全部見られてしまうのだろうか』と不安を感じている

「【ちよつとコミカルに、かわいく。

『もしそうだったらどうしよう……!!』という感じで」
今の私達って、その。

お医者さんとかに、見、見られちゃってるのかなあ……!!」

〈主人公〉

「……ああ……」

確かにそれは、とっても大切な話だ。

ここに来てもあるで氣にしていなかった自分の方が、よほど異常者のように感じられる問題である。

主人公、そんな事を思いつつ、結月の疑問に答えるべく、頭の中で、これまでに得た情報を整理していく。

SE5 結月がベッドから起き上がり、ベッドから出る音

【最初から最後まで流す】

●正面 30センチ

大きく首を振って、きよろきよろしながら話す

■ベッドから出て、部屋の作りを意識し始める。

『今まで意識せずにいたが、これまでのやり取りは全部医療関係者や家族に見られていて、ここから先も全部見られてしまうのだろうか』と不安を感じているので

「【※大きく首を振りながら、きよろきよろしながら話す。

ちよつとコミカルに、かわいく。

部屋の構造について述べていく」

この部屋って、見れば見る程、凄く凄く妙よね。

広い部屋におっきいベッドがぼつんって真ん中に一つだけあって」

SE6 結月の足音

【最初から最後まで流す】

【だんだん遠ざかって3メートル地点ほどまで行って止まる】

★ボイス加工あり

・3メートルほど離れた位置から聞こえる

●正面 30センチ

大きく首を振って、きよろきよろしながら話す

「【※大きく首を振りながら、きよろきよろしながら話す。
ちよつとコミカルに、かわいく。

探偵のような気分で、部屋の構造について述べていく】

壁は、貴方が入ってきた入り口側以外、全部ガラス張りで」

SE7 結月の足音2

【最初から最後まで流す】

【さらにだんだん遠ざかって5メートル地点ほどまで行って止まる】

★ボイス加工あり

・5メートルほど離れた位置から聞こえる

●後ろ向き 30センチ

■窓辺に立って、外を見下ろしながら話している。主人公には背中を向けている状態。

それから、所感を述べる

「『確証はないが、目視した印象はこんな感じ』という感じで話す」

高さは……すごく高い所に建ってる……設定なのかな？

すごい、街が見下ろせる感じ？ の作りじゃない。

● 後ろ向き 30センチ 正面 30センチ

「※勢いをつけて、ぐるっと振り向く。」

かわいく、あわあわとした感じで」

……これって、この部屋で起きた事は♥

全部どこで見られてるから、こういうスケスケのデザインって事なのかなあ……!!」

〈主人公〉

「うーん」

SE 8 結月の足音3

「最初から最後まで流す」

「2回繰り返し流す」

「だんだん近づいてきて、正面1メートルの距離まで戻る」

★ボイス加工あり

・1メートルほど離れた位置から聞こえる

■主人公の意見が聞きたくて、元の位置に戻り始める

●正面 30センチ 上100センチ

「『おろおろと不安そうにたずねる。』

だが、その一方で、どこか何かを期待しているような様子で」
どう、思う？」

〈主人公〉

「それは違うと思う」

SE9 結月の足音4

【最初から最後まで流す】

【SE7と同じ音】

【だんだん近づいてきて、正面30センチの距離に戻る】

●正面 30センチ 上100センチ

「【素直に驚いて。』

早く続きが聞きたいという感じで続きを促す。

主人公がきっぱりと自分の意見を否定したので」

……そうなの？

そ、その『違う』って思う根拠は？」

SE10 主人公がベッドから出る音

【最初から最後まで流す】

〈主人公〉

「根拠としては弱いかもしれないけど。

私は事前に、ゆづがどういう場所にいるのかを知らされてなかった。

AIはとても協力的だった。

もしこの部屋……っていうか、作られた仮想空間が、事前にどんなものかAIに見られるのなら、私は最初に構造を説明されてたと思う。

つまり、AIであっても、仮想空間の中身は見られなかったんじゃないかな」

● 正面 30センチ

■ お互いに立った状態で向かい合って話す

「素直に納得した様子で。主人公の説明が納得のいくものだったので」
なるほど……。

【主人公の言葉を自分の言葉でかみ砕く形で復唱する】

まあ……それは、確かに？

もしAIがこの部屋を事前に見られるなら、治療目的で入る貴方には、あらかじめという構造なのかとか、私はどこにいるのかとか、説明しててもおかしくないものね」

〈主人公〉

「うん。」

それに、これは一般論だけど。

仮想空間って本人の主観が反映されるから、相当なプライバシー情報じゃない」

● 正面 30センチ

「興味深そうに相槌を打つ」

ふむふむ」

〈主人公〉

「最悪、ここであつたか病院関係の人に見られる事はあっても、それって数値化され

て、結果だけが送信されると思うし。

ましてや、内容について聞いてくる事はまずないと思うんだよね」

● 正面 30センチ

「『多少』『本当にそうかしら？』『そう思って大丈夫？』』と思いながらも、相槌を打つ」
ふむ……ふむ？」

〈主人公〉

「だから、ここで起きた事を詳しく開示するか否かは、ゆづの意思次第だと思う。
それでもお父さんとお母さんとかは、見たい、開示してほしいって言いたがるかもしれないけど。

今回に関しては拒否っていいと思うよ。私も一緒をお願いしてあげるし」

● 正面 30センチ

■自分を奮い立たせたい。主人公の仮説を信じる事で『大丈夫』と思いたい
「『ぼそぼそ、ぶつぶつと独り言のように。』

完全に納得してはいないが、希望的観測として『そう』であると思いたいの。
主人公に返事をしていてもいるが、自分に言い聞かせてもいるので」

そう……よね。多分秘密は……守られるわよね……。

見られない……わよね？ 大丈夫よね？

【特に独り言っぽく】

うん。そんな気がしてきた」

〈主人公〉

「そうだよ。」

何？ 見られなかったら安心して色々できるって思った？」

● 正面 30センチ

■ 主人公の優しくからかうような言葉に、正直にドキドキしてしまう。

結月は主人公の事を『ちよつと意地悪な態度をとる事はあるけど、自分が本当に嫌がる事はしない優しい人』『とても器用で、その気になれば何でもさらりとできる人』と思っている。

これを仮想空間の力で拡大解釈すると『自分にとって、最適なさじ加減でいじめてくれるちよつとSっ気のある人（でもそれがいい）』『絶対にセックスがうまい人』になる。

この結月が抱く、期待と願望を込めたイメージが、主人公を『つよく』している

「【ものすごく恥ずかしそうに、だが『まさに凶星』という感じで。

完全に虚をつかれて」

……あ……!!」

〈主人公〉

「ゆづはエロいなあ」

●正面 30センチ

「【ものすごく恥ずかしそうになる。

だが『まさに凶星』という感じで」

うあ……。

【ものすごく悔しそうになる。

だが『もう認めなくては』という感じで」
くうっ……。

【かわいく、ものすごく恥ずかしそうにしつつ、開き直って、認める】

そ、そうよ……? 

『誰にも見られないなら、安心して色々できる』って、思ってた。

【かわいく、だが真剣に覚悟を述べる】

治療はちゃんと、頑張る。

私のしたい事……私もちやんと分かってないかもしれないから。
貴方にも探してもらいながら、見つける。

【ものすごく恥ずかしそうに、言いにくそうに】
だから……。

● 正面 30〜0センチ

【※ずっと近づく※ 自分からキスするために近づく。

※1回※ 触れるだけのキスをする】

ちゅ ♡

【かわいく、ものすごく恥ずかしそうにしつつ、はっきりと言う】
私の事、好きに、してみて？」

ここでフェードアウトして終了。